

〈作品〉

作品「KING OF THE ANIMAL」

前 田 夏 樹

Natsuki MAEDA :
A Work “KING OF THE ANIMAL”

鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 第73号 抜刷

2016年7月

〈作品〉

作品「KING OF THE ANIMAL」

前田夏樹¹

Natsuki MAEDA : A Work "KING OF THE ANIMAL"

油絵具とアクリル絵具, 写実とデフォルメなど異なる画材やタッチを同一画面上で表現するため, コラージュ風のポスターをイメージした作品を制作した。第20回鳥取県美術家協会展出品作品。

キーワード：油絵具 アクリル絵具 写実 デフォルメ コラージュ

本作品は、米子市美術館で開催された第20回鳥取県美術家協会展（平成28年1月24日～30日）に出品した作品である。

作品のテーマについては、著者自身の日常から発想を得た。すなわち、日々の子育てを行う中で、泣いたり、暴れたりして手が付けられない子供に対して、「子供には誰もかなわない」といった思いから、子供＝王様というテーマを設定し、さらに「動物の王様」というようにアイデアを展開させていった。タイトルは「KING OF THE ANIMAL」とした。

作品全体のイメージはコラージュ風のポスターである。コラージュとは写真や印刷物を、同じ画面に貼りつけ¹⁾構成する技法である。今回こういったイメージを想定したのは、異なる画材やタッチを同一画面上で表現しようと考えたからである。

画材に関しては、油絵具とアクリル絵具を使用した。油絵具は重厚で深みのある表現、アクリル絵具は鮮やかでポップな表現が特徴である。これらの画材の特徴を活かすため、油絵具を使用した中央の子供は写実的で立体的に、またアクリル絵具を使用した周囲の動物は、デフォルメし平面的なイラストレーション調のタッチで描いている。油絵具の表現はできるだけ写実的に描くことで、写真に近いような印象を狙い、アクリル絵具の表現は平面的なイラストレーション調にするため、配色は基本的にべた塗りの面と線で構成している。

このような異なる画材やタッチによる表現を同一画面上に配する際には、少なからず何らかの違和感が生じてくる。そこで、この違和感を和らげるための方法として、さらにいろいろな要素を加え、コラージュ的な印象を持たせることとした。

例えば、子供の周囲を取り囲むドーナツ状の図形や、その上の文字、背景などがその要素に当たる。文字や図形は、絵の部分との違いを強調し、背景に関してはストライプを配置することでパターンのようなイメージとした。またストライプは斜めに配置することで動きを出し、ポップな印象を与えるものとした。

このように様々な要素を加え、これらを混在させることでのコラージュ的な印象を与える効果を狙った。その他レイアウトに関しても、画面の中心に子供を配置し、その周囲をさまざまな動物が取り囲むようなものとし、人工的な配置とすることでポスターのようなデザインされた印象を持たせた。

以上のように本作品では様々な試みにより、コラージュ風のポスターというイメージをもたせることで、異なる画材やタッチによる同一画面上での表現を行った。今後も新たな作品制作を継続することで自身の表現スタイルへとつなげたい。

注

1) (社)日本グラフィックデザイナー協会教育委員会『ビジュアルデザイン1』, (株)六耀社, 1993年, p.76.

1 鳥取短期大学生活学科



KING OF THE ANIMAL 910 × 727cm

前田 夏樹